

光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校
校長 山谷 安雄
令和4年度 第9号
令和5年1月12日

目標を達成するために

校長 山谷 安雄

令和5年がスタートしました。穏やかな年明けになりました。新型コロナウイルス感染症についても劇的に改善することはないですが、ワクチンの接種や飲み薬が承認されて少しずつ変わってきました。しかし、感染者数は依然として高止まりなのが気になります。区の方針では、感染防止につとめ、できる限り今までどおりの教育活動を進めるようにということです。3年生の進路決定や2年生のスキー移動教室実施に向けて粛々と進めていきたいと考えています。生徒たちは、新年の抱負等それぞれ目標を考えているものと思います。

さて、数年前に目標を達成するための手法を考える研修会で、大谷翔平選手の高校1年の時の目標が例として配られました。その中で第一の目標は、高校3年生の時に『ドラフト一位指名8球団』でした。そして、それを達成するために、8つの具体的な行動を挙げていました。その中の一つに『運』という項目があり、そのほか、『人間性』『メンタル』以外の5つは、野球に関することでした。この『運』を自分に引き寄せるための行動が、「あいさつ」「ゴミ拾い」「道具を大切に扱う」「審判さんへの態度」「応援される人間になる」「本を読む」等でした。さすが、メジャーリーグでも一流の選手になっただけあります。普通の人との違いを感じました。凡人は、『運』を味方につけるために、神社に行って神だのみをするのがせいぜいなのに、自分から働きかけようとするのがすばらしいと思いました。特に「ゴミ拾い」は、ボランティアと言うより、自分のために周りの人の目に関係なく行っているのだと私は感じました。つまり、「自分を見つめる。自分を振り返る。」ためであると思います。また、「審判さんへの態度」にも驚きます。メジャーリーグで大谷選手の判定に対する紳士的な態度が、日本の新聞等で報道されましたが、原点はここからきているのがわかりました。

話が変わりますが、以前より日本人が世界のスポーツ界で活躍するようになった気がします。プロに転向したフィギアスケートの羽生結弦選手の、緊張しても実力を発揮する秘訣というような話を思い出しました。頑張るという言葉は自分自身を過度に緊張させてしまうから「使わない、言わない。」そうです。そして、いつもの自分を出せるように、楽しく滑ることを心がけているそうです。

目標を達成するためには、2度や3度の失敗に失望することなく何度も何度もチャレンジすることの大切さについて2つの例をあげて始業式で生徒達に話しました。